

<h3>調査視察等の報告書</h3>	
30年 12月 19日	
日進市議会議長 近藤 ひろき 様	
議員氏名 大橋ゆうすけ 印	
実施年月日 30年 4月 5日	行き先 愛知県尾張旭市
目 的 ユネスコスクールとしての取り組み内容についての調査	
報告事項 ※報告事項については、別紙参照	
※別添資料 有	

調査視察地等の報告事項

尾張旭市旭小学校でのユネスコスクール取り組み概要

「にじの森、青空広場からつながる自然・環境・人とのかかわり活動」をテーマとして、日々の教育活動の中ではビオトープ（にじの森）や芝生広場（青空広場）等を活用し、人とのかかわり・自然とのかかわり・地域社会とのかかわりを重視し、身近な問題を自分たちの問題として考え、話し合い活動や体験活動を通して主体的に課題解決をしていける児童の育成を目指しています。

「にじの森」周辺には、50種類を超える樹木やカマキリ・バッタ・トンボ・セミなどの昆虫、池にはザリガニ・メダカ・モロコ・カエルなどの生きものがおり、児童が五感を使って感じながら、生き物の命のつながりや自然の生態系の仕組みを学ぶことができるようになっています。

基本的な活動としては、「いのちのつながり」「環境」「かかわり」をキーワードとして捉え低学年では生活科など、3年生以降は理科の飼育栽培・観察学習などを中心として、「にじの森」「青空広場」での生きものや友達とのかかわりを通して、生き物の命や人とのかかわりについて学び、学年が上がるにつれて視野を広げていく教育活動を取り入れています。旭小学校では、こうしたこれまでの取り組みを、ESDの観点から独自のカリキュラムとして編成、実施しており、今後においても、教育活動全体を通して継続的にこのプロジェクトを推進し、ユネスコスクールの理念と実践の両面を実現しようと考えられています。

所感

尾張旭市旭小学校（以降、本小学校とする）では、2015年にユネスコスクールの申請を行い、実際にスタートできたのが2017年2月になってからのこと。ユネスコスクールとしての取り組みをスタートする前に学校長が変わってしまい、少しトーンダウンしているように感じました。こうした状況は、愛知県庁のユネスコスクール推進担当である生涯学習課も「学校長及びESD担当の先生変わった際に当初の思いやユネスコスクール活動そのものの継続ができていない」と認識し、ユネスコスクール全体の課題となっています。

ただ、本小学校においては、申請書類に記載されているプロジェクトの目的・実施にあたってのESDカレンダー・使用する教材が明確に示されているため、児童と共に先生方も一緒に学びながら推進できる状況となっています。特に、使用する教材の中では、1、いのちのつながり学習 2、環境学習 3、かかわり学習として、それぞれ教科書や教材を始め、学校の中だけでなく「地域とのかかわり」として各事業にアドバイザー（JAXA職員・地域農家・南極越冬隊員OB・大学准教授・市職員）との連携も明記されており、今後の取り組みも日進市の参考となる活動であると感じました。